

地理歴史

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
地理歴史	歴史総合	2	1年次・全	必修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
明解 歴史総合 （帝国書院）		明解 歴史総合ノート（帝国書院）		履修条件なし 1年次必修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。	多面的・多角的に考察する力を養い、歴史に見られる課題を把握し、解決への道筋を考える力を養うことで、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	現代世界の課題を主体的に追究しようとする態度を養い、自国の歴史や文化に対する多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国の歴史や文化を尊重することの大切さを認識する力を深める。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1	第2部 近代化と私たち	序章 近代化への問い 1章 江戸時代の日本と結び付く世界 2章 欧米諸国における近代化 3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア	4 5 6 7	・現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解させる。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現させる。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現させる。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚を深めさせる。	2 3 1 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
	2	第3部 国際秩序の変化や大衆化	序章 国際秩序の変化や大衆化 1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広がり 3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本	9 10 11 12	・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解させる。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現させる。 ・日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現させる。 ・我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めさせる。	2 3 1 2 3 1 2 3 1 2

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

3 学 期	第4部 グロー バル化 と私た ち	序章 グローバル化への問い 1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多様化する世界 3章 グローバル化のなかの世界と 日本	1 2	・歴史的経緯を踏まえ、現代的な諸課題 を理解させる。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解 決したりする活動を通して、事象の背 景や原因、結果や影響などに着目し て、日本とその他の国や地域の動向を 比較し相互に関連付けたり、現代的な 諸課題を展望したりするなどして、主 題について多面的・多角的に考察、構 想し、表現させる。 ・身のまわりの事象と世界がつながって いることを考察し、理解する。 ・よりよい社会の実現を視野に課題を主 体的に追究、解決しようとする態度を 養わせる。	2 3 1 3 1 2 3		
	第1部 歴史の 扉	1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料	3		2 3 2 3		
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度	
	規 準	○授業で学んだことを理解して いる。 ○インターネットや文献などか ら情報を収集できる。 ○図や資料を適切に読み取り、授 業で活用できる。		○収集した情報を的確に理解し、 整理・分析することができる。 ○分析・考察したことを効果的に 説明することができる。 ○自ら課題を設定し、その解決方 法について考察できる。		○学習の目標を理解し、真面目に 取り組むことができる。 ○積極的な発言や行動ができる。 他とうまく協働しながら、学習 を進めている。	
	手 段	・定期テストや授業中の応答、課 題など		・定期テストや授業中の応答、課題 など		・授業中の応答や態度、課題など	
	単元末や学期末及び年次末にお ける評価の総括方法		「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」 から総合的に評価する。				
学習上の 留意点	・毎時間教科書とタブレットを持参する。 ・課題やノート（学習プリント）など、提出物は期限内に提出すること。						